

「福岡大学病院における無痛分娩の安全な提供体制」

I. はじめに

昨今、無痛分娩時に発生した重篤事例が報告されており、無痛分娩の実態把握と安全な提供体制の構築が急務となっています。そこで、産婦人科・麻酔科・周産期領域の関係学会・団体が連携協力し、無痛分娩の実態把握を行うこと、その結果を分析し無痛分娩の安全な提供体制の構築を行うことを目的として、平成 29 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）による「無痛分娩の実態把握及び安全管理体制の構築についての研究」（研究代表者 海野信也）が行われました。福岡大学病院では、成 29 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）による「無痛分娩の実態把握及び安全管理体制の構築に関する提言」に基づき、以下のような医療体制を構築して安全・安心の無痛分娩を提供しています。

II. 安全な無痛分娩を提供するための福岡大学病院における診療体制

1. 無痛分娩取扱施設は、最新の「産婦人科診療ガイドライン産科編」を踏まえた上で、個々の妊産婦の状況に応じた適切な対応をとること。
2. 無痛分娩取扱施設は、安全な無痛分娩を提供するために必要な診療体制（別紙参照）を確保するよう努めること。

安全な無痛分娩を提供するために上記の提言を踏まえて、福岡大学病院において、

- 1) 無痛分娩各症例に対して、産科及び麻酔科の主治医が決定され、診療上の責任を明確にする。
- 2) 研修や学術活動を通して、無痛分娩を担当する医療スタッフの技術的水準を担保している。
- 3) 麻酔を安全に行うため、必要な設備・医療機器等が整備されている手術室あるいは手術室に準じた麻酔と分娩を同時に行える分娩手術室にて麻酔処置を行う。

- 4) 同一の研修や学術活動を経験した医師・看護師・助産師により構成された医療スタッフが共通の認識を保有して無痛分娩に関連するあらゆる事象に対応する。
- 5) 産科医師・麻酔科医師・看護師・助産師により構成された医療スタッフから無痛分娩に関する十分な説明ののちに、妊産婦及び家族から同意・了承を得て行う。

Ⅲ. 無痛分娩に係る医療スタッフの研修体制の整備事項

安全な無痛分娩の提供体制を整備するため、無痛分娩に関わる医療スタッフに対して、産科麻酔の知識や技術、産科麻酔に関連した病態への対応等を修得する機会を提供し、質の向上を図ることが必要です。また、得られた知識や技術を維持し最新の知識を更新するために、福岡大学病院では無痛分娩に従事する医師及び医療スタッフは、

- (1) 安全な産科麻酔の実施と安全管理に関する最新の知識の修得及び技術の向上、及びそのケアの向上を目的として、福岡大学病院産科及び麻酔科、看護部合同で2年毎に開催する拡大講習会を受講する（カテゴリーA及びD）。
- (2) 安全な産科麻酔の実施と安全管理に関する最新の知識の修得及び技術の向上、及びそのケアの向上を目的として、無痛分娩を実施している医療機関で福岡大学病院の産科医師、麻酔科医師、看護師及び助産師は学外での研修を毎年実施し、その伝達講習会を受講する（カテゴリーA及びD）。
- (3) 産科麻酔に関連した病態への対応のための講習のため、日本産科婦人科学会、日本麻酔科学会、日本産科麻酔科学会などの関連学会へ参加する（カテゴリーB）。

J-CIMELS（産婦人科医師、救急医、麻酔科医、コメディカル等との協働及びそのための実践教育が重要との認識に基づき、あらゆる職種の周産期医療関係者に標準的な母体救命法を普及させることを目的とした講習会）や新生児蘇生法普及事業（NCPR）（日本周産期・新生児学会が新生児蘇生法委員会を組織し、すべての分娩に新生児蘇生を習得した医療スタッフが新生児の担当者として立ち会うことができる体制の確立を目指した講習会）などを受講する（カテゴリーC）。

無痛分娩の安全な診療のための講習会

カテゴリー		A	B	C	D
講習会の内容		安全な産科麻酔の実施と安全管理に関する最新の知識の修得及び技術の向上のための講習会	産科麻酔に関連した病態への対応のための講習会	救急蘇生コース	安全な産科麻酔実施のための最新の知識を修得し、ケアの向上をはかるための講習会
無痛分娩麻酔管理者		●	●	○	
麻酔担当医	麻酔科専門医 麻酔科標榜医		●	●	
	産婦人科専門医	●	●	●	
無痛分娩研修修了助産師・看護師				○	●

●：定期的受講が必要 ○：受講歴があれば可

上記の講習会以外にも、産婦人科医師は、周産期医療の知識や技術を維持し最新の知識を獲得するために下記の学術集会、講演会に積極的に参加する。

- (1) 日本産科婦人科学会学術集会
- (2) 日本新生児学会学術集会
- (3) 日本産科麻酔学会学術集会
- (4) 九州連合産科婦人科地方部会
- (5) 福岡産科婦人科地方部会
- (6) 福岡周産期懇話会
- (7) 福岡大学一胎児フォーラム

上記の講習会以外にも、麻酔科医は、産科麻酔の知識や技術を維持し最新の知識を獲得するために下記の学術集会、講演会に積極的に参加する。

- (1) 日本麻酔科学会学術集会
- (2) 日本産科麻酔学会学術集会
- (3) 日本心臓血管外科麻酔学会学術集会
- (4) 九州麻酔科学会学術集会
- (5) 臨床麻酔学会学術集会

- (6) 日本小児麻酔学会学術集会
- (7) 日本区域麻酔学会学術集会
- (8) 日本静脈麻酔学会学術集会
- (9) 日本集中治療医学会学術集会
- (10) 日本ペインクリニック学会学術集会
- (11) 日本緩和医療学会学術集会

IV. 無痛分娩の提供体制に関する情報公開

無痛分娩を希望する妊婦が、福岡大学病院を選択できるように、福岡大学病院における無痛分娩を提供する診療体制に関する情報を公開しています。

公開している情報は以下のとおりです。

- (1) 無痛分娩の診療実績
- (2) 無痛分娩に関する標準的な説明文書
- (3) 無痛分娩の標準的な方法
- (4) 分娩に関連した急変時の体制
- (5) 危機対応シミュレーションの実施歴
- (6) 無痛分娩麻酔管理者の麻酔科研修歴、無痛分娩実施歴、講習会受講歴
- (7) 麻酔担当医の麻酔科研修歴、無痛分娩実施歴、講習会受講歴、救急蘇生コースの有効期限
- (8) 日本産婦人科医会偶発事例報告・妊産婦死亡報告事業への参画状況
- (9) ウェブサイトの更新日時

V. 無痛分娩の安全性及び有効性向上のためのカンファレンスの開催

福岡大学病院では、医療における安全性を向上するために、全ての症例の無痛分娩前及び無痛分娩後の症例について定期的にカンファレンスを開催し、継続的な臨床的な評価を行います。

- (1) 産婦人科は、月曜日から土曜日の早朝8：00（土曜日は8：30）に開催される福岡大学病院・早朝産婦人科カンファレンスにて当日の予定無痛分娩症例について症例報告を行います。

- (2) 産婦人科は、毎週木曜日に主催される福岡大学病院産婦人科外来・病棟カンファレンスで、1週間に分娩された無痛分娩症例に関する総括を行います。また、予定された無痛分娩症例についても報告します。
- (3) 産婦人科は、毎月第3水曜日に開催される福岡大学病院産婦人科病棟カンファレンスで、前月の無痛分娩症例について、助産師・看護師を含めた医療スタッフに総括・報告を行います。
- (4) 麻酔科は、月曜日から金曜日の早朝8:00に開催される福岡大学病院・早朝麻酔科カンファレンスにて当日の予定無痛分娩症例及び前日の無痛分娩症例について症例報告を行います。
- (5) 麻酔科は、毎月土曜日（月1回）に開催される福岡大学病院麻酔科医局会にて、無痛分娩症例について、症例検討を行います。
- (6) 麻酔科は、毎週金曜日に開催される麻酔科スタッフ会議を行います。
- (7) 無痛分娩50例ごとあるいは3ヶ月ごとに、福岡大学病院麻酔科医師及び看護師、産婦人科の医師及び看護師による、症例検討会を開催します。

VI. 無痛分娩の安全性向上のためのインシデント・アクシデントの収集・分析・共有

福岡大学病院では、医療における安全性を向上するために、発生した個々の有害事象ごとにその原因や背景要因などを分析し、その結果を踏まえた再発防止策を講じています。したがって、無痛分娩に関連する有害事象（全脊髄くも膜下麻酔や局所麻酔薬中毒のように発生頻度は低いものの、母児に重篤な結果をもたらす事例が存在することから）を同様に漏れなく事例を収集・分析し、再発防止策を検討できる体制を整えています。

- (1) 重篤な有害事象が発生した場合には、担当医より麻酔科及び産婦人科の診療部長および無痛分娩に関するワーキンググループに報告し、報告書を作製します。同時に福岡大学病院へインシデント報告とともに、迅速に福岡大学病院長に報告します。

(2) 福岡大学病院は、報告書に基づき日本産婦人科医会が実施する偶発事例報告事業及び妊産婦死亡報告事業の報告対象症例が発生した場合、日本産婦人科医会に速やかに報告します。

(3) 福岡大学病院は、以下の事象に積極的に協力します。

①日本産婦人科医会は、偶発事例報告事業の報告症例のうち無痛分娩の症例については、他の関係学会及び団体と連携し、産科麻酔の専門家が関与して、情報収集及び分析並びに再発防止策の検討を行い、必要な情報を会員等に提供します。

②妊産婦死亡報告事業の報告症例のうち、無痛分娩の症例については、適切な診療体制がとられていたかも含めて情報収集を行い、妊産婦死亡検討評価委員会へ情報提供します。

③妊産婦死亡検討評価委員会からの報告を、会員等に提供します。

④妊産婦死亡検討評価委員会は、無痛分娩の症例に対し、適切な診療体制がとられていたかも含め、妊産婦死亡の原因分析及び再発防止策の立案を行い、日本産婦人科医会に報告します。

VII. 「無痛分娩に関するワーキンググループ」の設置

平成 29 年度以降、より安全な無痛分娩の提供体制を構築していくため、福岡大学病院では、継続的な検討と活動が必要であるため「無痛分娩に関するワーキンググループ」を設置しています。

以下の項目について定期的に検討していきます。

- (1) 無痛分娩の提供体制に関する情報公開及び修正
- (2) 無痛分娩の有害事象に関する情報の収集及び分析並びに再発防止策の検討
- (3) 「無痛分娩の安全な診療のための拡大講習会及び伝達講習会の定期的な開催
- (4) 無痛分娩に関する社会啓発活動の継続的な実施
- (5) 妊産婦にとって分かりやすい情報提供のあり方

無痛分娩に関するワーキンググループ

福岡大学・医学部・麻酔科学教授	山浦 健
福岡大学・医学部・麻酔科学准教授	東 みどり子
福岡大学・医学部・麻酔科学講師	重松 研二
福岡大学・医学部・麻酔科学助教	大脇 涼子
福岡大学・医学部・麻酔科学助教	千々岩 絵里子
福岡大学・医学部・麻酔科学助教	廣田 一紀
福岡大学・医学部・麻酔科学助教	岩下 耕平
福岡大学・医学部・麻酔科学助教	安部 伸太郎
福岡大学・医学部・麻酔科学助教	佐藤 聖子
福岡大学・医学部・麻酔科学助教	中森 絵里砂
福岡大学・医学部・麻酔科学助教	三股 亮介
福岡大学・医学部・産婦人科学教授	宮本 新吾
福岡大学・医学部・産婦人科学講師	村田 将春
福岡大学・医学部・産婦人科学講師	宮原 大輔
福岡大学・医学部・産婦人科学講師	四元 房典
福岡大学・医学部・産婦人科学助教	倉員 正光
福岡大学・医学部・産婦人科学助教	讚井 綾子
福岡大学・医学部・産婦人科学助教	荒木 陵多
福岡大学・医学部・産婦人科学助教	井槌 大介
福岡大学・医学部・産婦人科学助教	深川 怜史